

2378

立川馬馬著述

初編

歌川國安畫圖

全四冊

相撲推故傳

文政十三庚寅

江都横山町

前編

孟春新鑄發市

岩戸屋喜三郎梓



書肆永壽堂茶林堂の両主人我草菴に於て相撲水滸傳を撰とる不徒今に筆を以て其手を之に傳ふ書とすは柳を以て撰まざるが如くは作意故之を相撲推故傳と題し小冊を著し今年先其初編二編と卷を分て八冊に於て猶年々卷を以て二百八に全せん像乃當せると文章乃拙角髪等々眼るを圍るなるゆに書之れを圍する大人その雅を以てあるべきまじし

文政十三寅春新梓

二代目

立川馬馬速



目録佳政也 物上

一條院の御宇節會
 家手を勤む深山に
 猛獸を引裂

駿河國
 我市の
 仁王
 宗平



相撲権助

從四位下左兵衛佐
 紀名虎
 少將伴
 善雄
 文德
 天皇
 御宇
 御位
 相撲右本文出ス



近江國高島

大炊子

古今の大力を
佐伯氏長に力を
与へ相撲節會
寂手に
立む



豊後國

日田

鬼藏

大矢

永季

身長八尺にわたり
延久三年行年
十六歳に節會の
寂手を勤し若者
鬼童子を投殺





目録 尾張國 伊成



目録 尾張國 伊成



ついでに思ふ事なればは四回四回
と考へればは四回四回の方
万葉の用青に華色色
ける名虎八軍より大青に
はの徳有へ公まことか
方は名虎八軍の文にも四
ついでに思ふ事なればは四
と考へればは四回四回の方
万葉の用青に華色色
ける名虎八軍より大青に
はの徳有へ公まことか
方は名虎八軍の文にも四

三回入の
舞の舞
に
ゆ

四回入の
舞の舞
に
ゆ



ついでに思ふ事なればは四回四回
と考へればは四回四回の方
万葉の用青に華色色
ける名虎八軍より大青に
はの徳有へ公まことか
方は名虎八軍の文にも四
ついでに思ふ事なればは四
と考へればは四回四回の方
万葉の用青に華色色
ける名虎八軍より大青に
はの徳有へ公まことか
方は名虎八軍の文にも四



立寄りの茶を
 飲ませよと
 申す目も
 赤くあざ
 赤くあざ
 赤くあざ
 赤くあざ
 赤くあざ
 赤くあざ



三 茶うて暮せり
 各虎分と
 ありん

腕の力ぬめりて物のあつりひとくあゆむ
 のころも仁王のゆきさるるじよせむまはら
 いさるき旅かたはるるぬいせむるれ
 わりまひはるるにもたぬいせむるれ
 ありん

ねんねんねんねん
 ねんねんねんねん



立川馬馬著曲歌川國安画



立川馬馬著曲歌川國安画

清朝名匠胡瓶新傳方

身體平安湯 十金百足 清金二朱 試と張者

○此湯は病後を治す方とあり... 調合所 岩戸屋喜三郎

陶朱公天受秘方良劑

富貴自在運利香 一包代 音世三孔

東都 細川起規製 岩戸屋喜三郎... 調合所 岩戸屋喜三郎

傳 推 相 撲
故 撲

初編

立川馬馬作
歌川國安画



西興梓
岩戸

後

立川了了著 初編
 野川玉安画 全四冊
 角力掛紙傳 之
 久政康寛 長篇
 寸多持板 榮林堂梓



仁王宗平のいふやう
 仲のなりきつて
 相撲のついでに
 の左の家に来たの
 家に来たの
 りの宗平は
 りの宗平は
 りの宗平は
 ひろさつて
 はやくさん
 りの宗平は
 我が家をおもひ
 いのりつて
 己が宗平は

角力掛紙傳 久政康寛 寸多持板



その竹の子の...
大さくおろけの...
その竹の子の...
大さくおろけの...

仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸



その竹の子の...
大さくおろけの...
その竹の子の...
大さくおろけの...

仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸
仁丸



かみすまき 柳の葉の影にまじりて
あはれなるものありて
家と云ふと云ふ
をいふこと
すらすらと
いふ強た
年のこと
相撲の情を
にそのすぬ男
あはれなる男
かみすまきの影
と云ふこと
中に一人か者
あはれなる男
たぬと男相
このたに後
は丸はこま



都のいぬおの
あはれなる男
かみすまきの影
にそのすぬ男
あはれなる男
かみすまきの影
と云ふこと
中に一人か者
あはれなる男
たぬと男相
このたに後
は丸はこま

此の山に於ては昔より大蛇の窟なり
其の窟の奥に大蛇の窟あり
其の窟の奥に大蛇の窟あり
其の窟の奥に大蛇の窟あり



此の山に於ては昔より大蛇の窟なり
其の窟の奥に大蛇の窟あり
其の窟の奥に大蛇の窟あり
其の窟の奥に大蛇の窟あり

もろこし
のり



此の山に於ては昔より大蛇の窟なり
其の窟の奥に大蛇の窟あり
其の窟の奥に大蛇の窟あり
其の窟の奥に大蛇の窟あり

目録准政考の編下

七十四



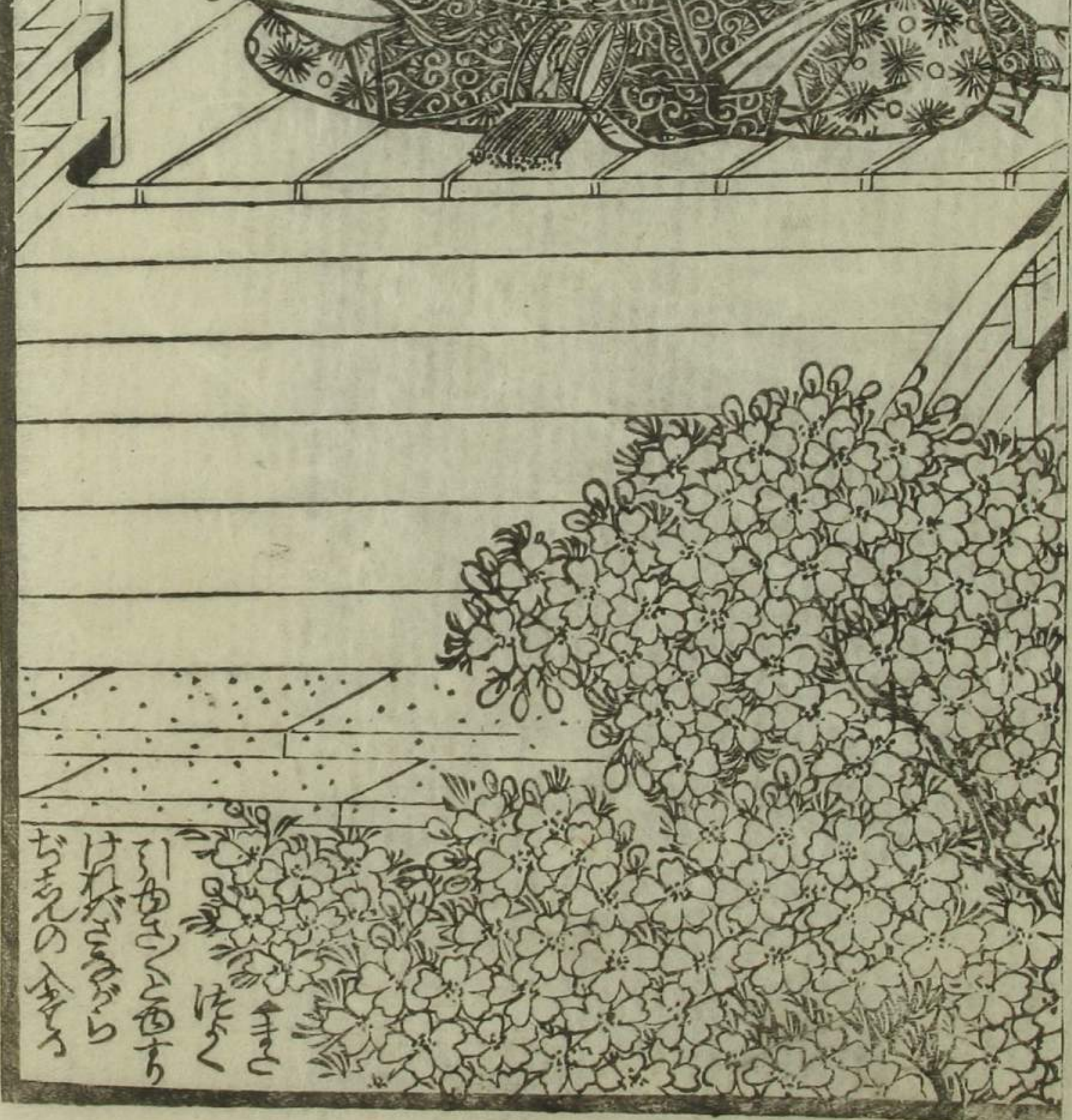
口から吐き出さるる
 とのやがてこの世の
 ことごとくはつらつと
 かなたの世にうつりて
 破りたる世にあらはれ
 かたき世のあらはれ
 奥の奥に隠るる世
 ことごとくはつらつと
 かなたの世にうつりて
 破りたる世にあらはれ
 かたき世のあらはれ
 奥の奥に隠るる世
 ことごとくはつらつと
 かなたの世にうつりて
 破りたる世にあらはれ
 かたき世のあらはれ
 奥の奥に隠るる世



目録
 下
 目録
 下
 目録
 下

目録 下

目録
 下
 目録
 下
 目録
 下



目録
 下
 目録
 下
 目録
 下

目録 下





文政五年新板目錄

角力水滸傳 全十冊 立川馬馬作
 新製小人鳩廻會 十返舎一九作
 小倉袴女岸流英雄録 立川馬馬作
 武藏鏝女岸流英雄録 立川馬馬作
 天下小茶屋敵討 十返舎一九作
 無知哉論四編 全六冊 東里山人作
 録倉武鑑 賴朝公御代 初編二冊 三編
 泰平武鑑 國分御代 大名附 横本 一冊
 足利武鑑 足利御代 大名附 全一冊
 日光御奉詣 供奉御役人附 横本

廿三日の大騒動
 一巻代七十三頁
 小兒行深園 一巻代八十八頁
 仙女香 一巻代八十八頁
 幼見山景 一巻代廿四頁
 蓮利香 三巻代三十三頁
 岩戸屋喜三郎



立川馬馬著 曲
 歌川國安画

このころよりとせんとおぼしむるなりぬのていさうなるはがたは撲の
 かこのころよりとせんとおぼしむるなりぬのていさうなるはがたは撲の
 まりしにこの相撲合夥物流にはさしやうりぬのていさうなるはがたは撲の
 のちのちの沖合をまらばらるるにぬのていさうなるはがたは撲の
 そのころよりとせんとおぼしむるなりぬのていさうなるはがたは撲の
 勢をほのぼのたるにさすけのなまよとせんとおぼしむるなりぬのていさうなるはがたは撲の
 むのほよよたるにさすけのなまよとせんとおぼしむるなりぬのていさうなるはがたは撲の
 勢をほのぼのたるにさすけのなまよとせんとおぼしむるなりぬのていさうなるはがたは撲の



相撲
推故傳

二編

前

文政十三
庚寅春

赤馬馬作
哥川国安画



立川馬撰
歌川國安画

二編

相撲推故傳上冊

文政十三年 伯樂街第二
庚寅春 永壽堂



陸奥乃国に住人

真髮成村

後一院の
御宇の
相撲節會乃左の
最手より天狗と力競
とるまで新後

巻に出

二八

丹後国の住人
海の恒世

後一院の御宇同
右の最
許かり
成邑とま
合の事附り
化物と生捕
新後巻に



中納言
伊實



肢扶と
乃相撲男と
投殺と
新後巻に
出まて

丹後国



ナニヤカニ

三

大井光遠の妹
木乃實



越前の国小佐伯長とてつる大カ...

越前の国小佐伯長とてつる大カ...
 越前守の御前...
 越前守の御前...
 越前守の御前...

高橋守の御前...
 高橋守の御前...
 高橋守の御前...

高橋守の御前...
 高橋守の御前...
 高橋守の御前...



江戸の女
 二八八

四



三十一
おきつて下りて
てそのまゝのこゝろ
ひらいてのこゝろ
さしつかへなく
かゝるまゝの
そのまゝの
月のまゝの
このまゝの
おきつて下りて
てそのまゝのこゝろ
ひらいてのこゝろ
さしつかへなく
かゝるまゝの
そのまゝの
月のまゝの
このまゝの

土曜 二八

五



十世...

...



漢楚賽擬選軍談第三編 曲亭馬琴下作 初篇三篇 丑春 出板

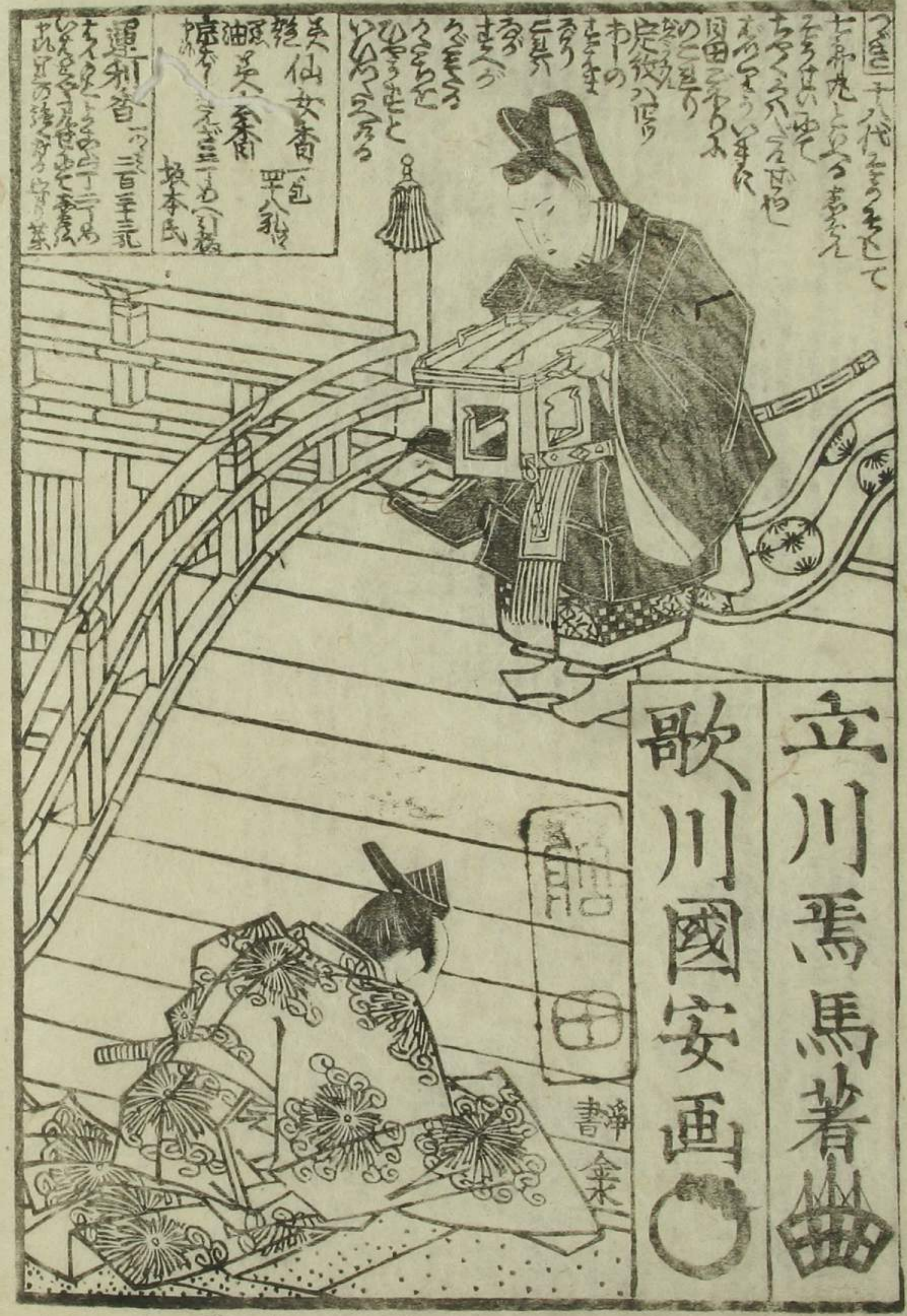
擬大倉記演義三國志 每編合本四冊

むしと歌集及物語 柳亭種彦作

國字水滸傳 八編 歌川國丸画

正本製衣十二編 柳亭種彦作 五渡亭國貞画

東都馬喰町貳丁目 永壽堂西村屋與八板



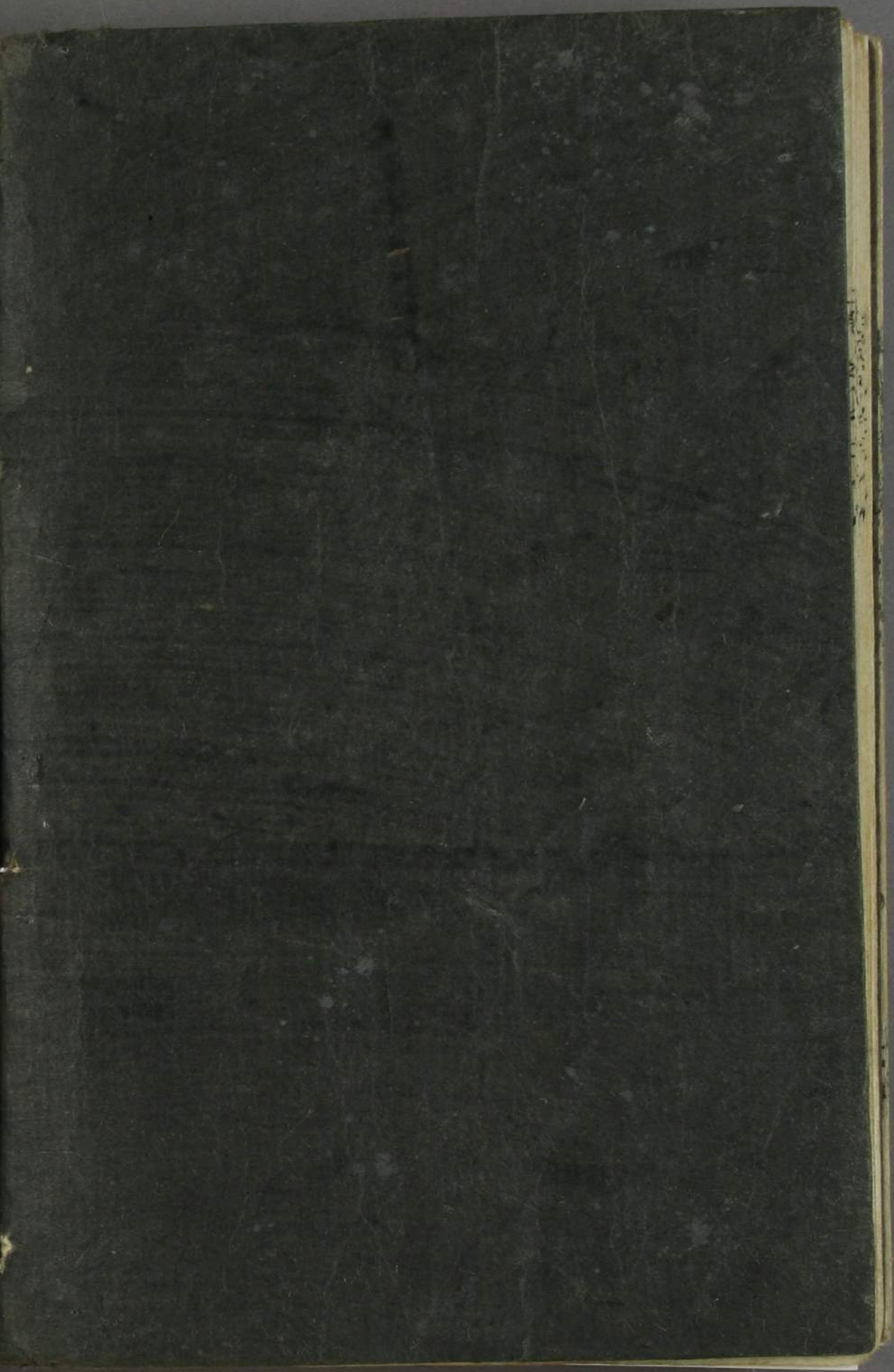
立川馬馬著曲
歌川國安画

相撲故傳

二編

多岐川
岩喜梓

岩喜梓





Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a haikai or a similar poetic form, written in a cursive style. The text is arranged in several columns, starting from the top right and moving towards the bottom left, following the curve of the veranda railing.

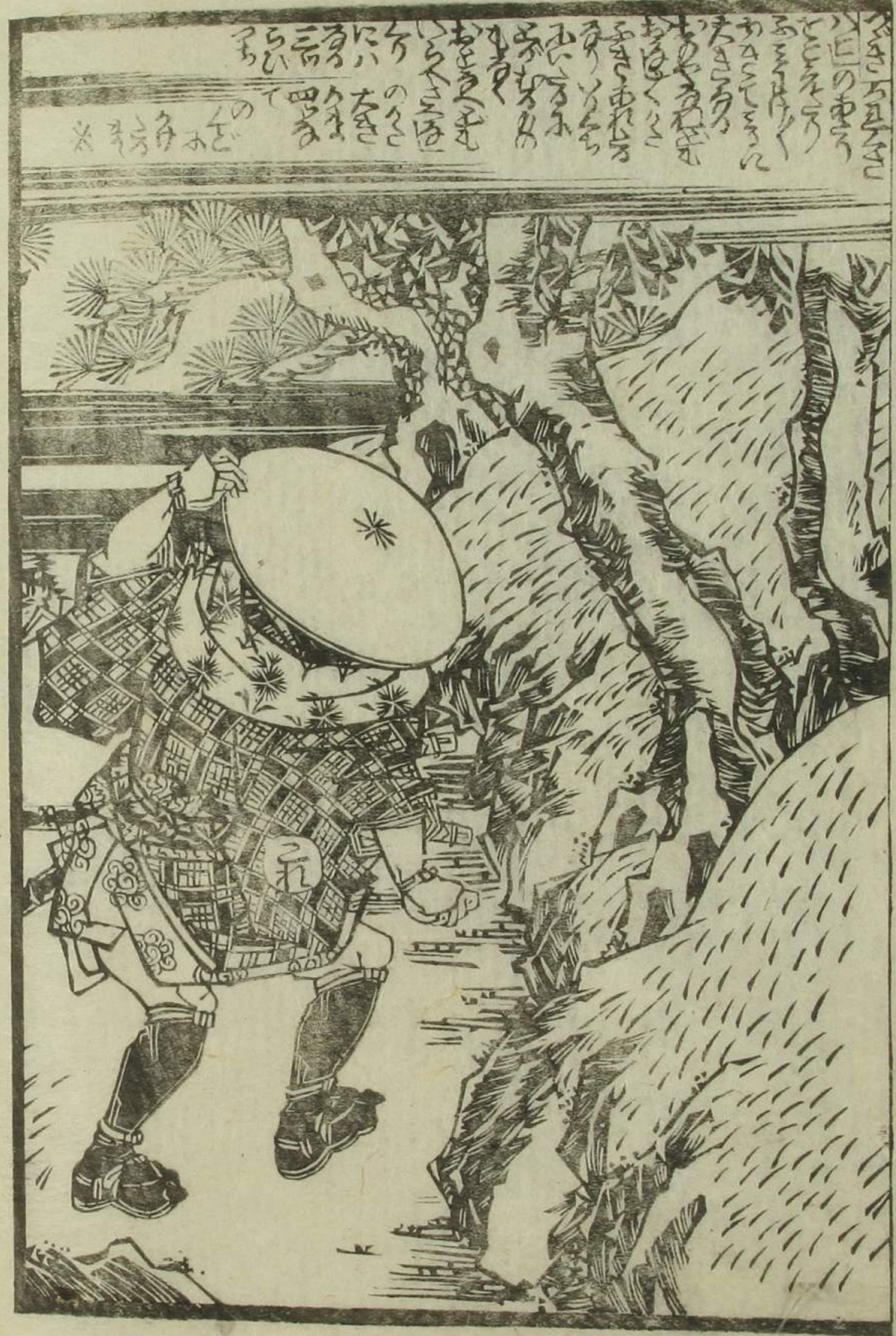


Vertical columns of handwritten Japanese text, similar to the left page, written in a cursive style. The text is arranged in several columns, starting from the top right and moving towards the bottom left, following the curve of the veranda railing.

Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or a title, written in a simple vertical style.



※この
山は
松林
の
中
に
あり
て
松
の
木
は
大
き
く
茂
り
て
山
を
覆
ふ
如
し
の
中
に
あり
て
松
の
木
は
大
き
く
茂
り
て
山
を
覆
ふ
如
し



この
山
は
松
林
の
中
に
あり
て
松
の
木
は
大
き
く
茂
り
て
山
を
覆
ふ
如
し
の
中
に
あり
て
松
の
木
は
大
き
く
茂
り
て
山
を
覆
ふ
如
し

松林の中
にありて
松の木は
大きく茂
りて山を
覆ふ如し



三十一

三十一



十

十







